

其利群生の もりをめざして

2026
第28号
春



ごあいさつ

平素より、世界遺産高野山の森林環境の維持管理に格別のご理解とご支援を賜り、誠にありがとうございます。

さて、令和7年度から名称が山林・管財部に変更となり、山林課の森林管理業務と工務課の境内地及び建物の管理業務を合わせて行う新しい部署となりました。これまで奥之院参道を中心に倒木や危険木の伐採など環境整備を継続的に行ってまいりましたが墓地・石塔の修復や歴史的建造物の補修も併せて業務を進めてまいります。

また、令和16年に奉修される弘法大師御入定1200年御遠忌の記念事業として奥之院参道の整備が始まりました。燈籠堂の全面改修も終わり、いよいよ記念事業の中心となる大師様の御廟整備が始まります。今後也会報を通じて情報をお届けできれば幸いです。

結びになりますが、皆様のご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げます。本年も何卒よろしくお願い申し上げます。 合掌

山林・管財部一同

令和16年 宗祖弘法大師御入定1200年御遠忌大法会奉修



其利群生のもりをめざして 2026 第28号

発行/金剛峯寺 山林・管財部 〒648-0211 和歌山県伊都郡高野町高野山132 TEL.0736-56-2016(直) FAX.0736-56-4640

令和7年4月1日より
一口3,000円に
変更しました。

献木一口
~~2,000円~~

→

献木一口
3,000円

高野霊木 五色腕輪念珠

男女兼用

高野霊木と五色の霊玉により、腕輪念珠を作製いたしました。

使用済念珠の取扱について

破損等で不要になった念珠は、奥之院燈籠堂にお納めさせて頂きますので、山林・管財課にご返送下さい。(送料実費)

**1口3,000円
の記念品
どちらかを
お選び下さい**

高野霊木 スマホスタンド

軽くて持ち運びに便利です

スタンドサイズ
縦:18.4cm
横: 8cm
厚さ:0.5cm

置いて充電できる!

ご好評につき追加製作致しました

令和9年版
予約受付中

10,000円の場合、いずれかをお選び下さい

高野霊木カレンダー短冊付
(数量限定)

※午年は完売致しました
※発送は11月頃を予定しております
※送料は代引きのみ行っておりません
※全国一律5,000円(手数料送料込み)

KUKAI(3冊セット)
(数量限定品)

金剛峯寺発行の冊子
4号、5号、6号のセットになります。

高野の森の香りハンドクリーム
(数量限定品)

高野山を代表する樹木であるコウヤマキをメインに杉・ヒノキなどの高野山の森林の香りを入り配合したハンドクリームです

◆ 通信欄 ◆

皆様からの献木志納金は祖山緑化・環境維持管理のため、使わせていただいております。

献木の寄付は金剛峯寺ホームページからも可能ですので、是非ご覧ください。

この会報は、献木にご協力頂いたみなさまに春と秋の年2回、それぞれ振替用紙を同封してお届けしております。会報の送付停止はメール又は、お電話にて賜ります。

最近、献木(ご浄財)3,000円の記念品として授与される五色腕輪念珠が、フリマサイト等で高額に販売されている事例が確認されています。本来の趣旨をご理解のうえ、安易な購入や転売には十分ご注意ください。

献木受付は
こちらから

会報バック
ナンバーは
こちらから

『献木』お振込先

振替用紙をご送付致しますので、山林・管財部までご連絡下さい。
郵便振替口座：大阪 00930-6-61758
ゆうちょ銀行：〇九支店 当0061758
加入者名：宗教法入金剛峯寺 山林・管財部

●窓口やATMでの払込みサービスを現金で利用するときには、1件ごとに料金110円が加算されます。通帳またはキャッシュカードを利用する場合は加算の対象外です。

お問い合わせ

〒648-0211 和歌山県伊都郡高野町高野山132 金剛峯寺 山林・管財部
TEL.0736-56-2016(直) FAX.0736-56-4640
E-mail sanrinkanzai@koyasan.or.jp
※次号から会報の送付を停止する場合は、お手数ですがご一報下さい。

献木奉納

「長年にわたり高野山の森を支え続ける」

弘法大師空海が開いたこの聖地は、1200年にわたり豊かな森林とともに歩んできた。その森を未来へと引き継ぐため、高野山の森林護持に支援を続ける寺院のご紹介です。高野山真言宗兵庫宗務支所月見山浄徳寺様は、先代住職から「森を守ることは、信仰を守ること」という揺るぎない思いを引き継がれている。高野山の森は、空海の教えである「共利群生」生きとし生けるものが互いに助け合い、共に生きる世界観を体現する場でもある。森を守ることを「未来への布施」として、すでに50回を超える大口献木（寄付）を続けてこられた。その浄財は、森の整備や保護などに活用されている。高野山の森は、数十年、数百年という時間をかけて育つ。今植えた木が寺院の建材として使われるのは、次の世代、さらにその先の世代である。寺院が続けてきた取り組みは、「自分たちの世代だけでなく、未来のために森を残す」という祈りの形で、これからもともに歩み続ける。



▲金剛峯寺大広間に奉納式

令和7年度 奥之院整備事業報告

奥之院参道において、倒木や落枝の恐れがある危険木の伐採作業が行われた。参道は多くの参拝者や観光客が訪れる場所であり、近年は老木化や、台風や豪雨の影響による倒木リスクを避けるため国の補助金を活用しながら整備事業を毎年行っている。また今年度は並行して墓地の石塔修復事業も行った。奥之院の墓地は、歴史・信仰・文化が重なり合う特別な場所だ。修復作業は単なる保全ではなく、千年の歴史を未来へつなぐための大切な営みと言える。奥之院参道は信仰と自然が調和する大切な場所。今後も定期的な点検を行い、参拝者の安全確保と景観・環境の保全を両立させていきたい。

またこの事業には参加会から毎年継続的に支援をうけています。



▲奥之院伐採



▲墓地・石塔修復前



▲墓地・石塔修復後



高野さんぽ

金剛峯寺では、新年を迎える準備が進められている。本坊茶の間では年の瀬を前に、僧侶や関係者が集まり、正月に向けたしめ縄作りが行われた。しめ縄は、清らかな空間を示し、災いを防ぐとされる日本の伝統的な正月飾り。古くから受け継がれてきた作法に従い、新しい年が平穏で実り多いものになるようお願いを込めて形を整えていく。作業中は静かな緊張感が漂い、新年への祈りが込められていた。完成したしめ縄は、山門や堂宇に取り付けられ、参拝者を清浄な気持ちで迎える準備が整えられる。この後も大掃除や鏡餅の準備など迎春行事が続き、徐々に新年の装いへと移り変わっていく。



▲茶の間に並べられたしめ縄

古事の森見学会開催 高野山「古事の森見学会」一千年の森に息づく信仰と自然をたどる一

高野山で開催された「古事の森見学会」には、多くの参加者が集まり、聖地高野山の自然と歴史を体感する貴重な機会となった。古事の森は、高野山の自然環境を守りながら、歴史的建造物を修復・復旧する樹木を育成することを目的に整備されたエリア。このプロジェクトで毎年参加者を迎えている。見学会では、霊宝館長大森師のもと「世界遺産壇上伽藍 西塔」の歴史的背景について詳しい説明が行われた。古事の森見学会は、高野山の自然と歴史を一体として学べる貴重な催し、森を守りながら、その価値を伝えていく取り組みは、今後も地域の文化継承に大きな役割を果たしていきそうだ。



▲西塔前にて記念写真

エスディージーズ SDGs × 山林・管財部のサステナビリティ

金剛峯寺は持続可能な開発目標 (SDGs) を支援しています。

～ユニバーサルデザインへの取り組み～

奥之院燈籠堂では、車いす利用者も参拝しやすいように新しくスロープが設置された。歴史的建造物の景観に配慮しながら進められた今回の整備は、宗祖弘法大師ご入定1200年御遠忌事業として燈籠堂の全面改修と共にすすめられ、多様な人々を受け入れる「共生社会」の実現に向けた SDGs の理念を体現する取り組みとなった。

燈籠堂は、弘法大師空海に祈りを捧げる場であり、国内外から多くの参拝者が訪れる。今回新設されたスロープにより、車いす利用者や足の不自由な方もより安全に参拝できる環境が整えられた。また、この取り組みにあたってはこれまでの景観を守りながら、現代社会の課題に対応する点も重要であった。歴史ある堂宇にユニバーサルデザインを取り入れることによって、文化財の価値を未来へ継承しつつ、多様な人々に開かれた場となることが期待されている。

